

科目名	IATAディプロマ危険物				
科目名(英)	IATA DIPROMAT Dangerous Goods Regulations-Initial /Category 3				
単位数	6	時間数	90時間	担当者	井関 雅視
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	国際航空貨物業務を37年経験
対象学科・学年	エアポート科 2年				
授業概要	まずは国際貨物の危険物輸送を安全・確実・迅速に行うために必要な危険物規則書の正確な適用と適正な取り扱いを学習する。更に具体的に航空運送状および危険物申告書の正しい作成、的確な梱包、マーキング、ラベリングを机上での練習問題を通して習得し、実践に役立つ授業を進める。最終的により多くのディプロマ危険物ホルダーを輩出する。				
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	実技:
					※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○				
	○				
	○				
	○				
学習目標 (到達目標)	目標 学生が危険物規則書に基づく正確な適用と適正な取り扱いができる 学生が航空運送状、危険物申告書への正確な記載ができる 学生が的確な梱包かなされているかの判断ができる 学生が外装容器へのマーキングが正しく間違い、漏れがないかどうかのチェックをすることができる 学生が外装容器へのラベリングが正しく、ラベル貼り洩れがないかどうかのチェックをすることができる				
テキスト・教材 参考図書	Dangerous Goods Regulations Edition 61, ICAO-IATA 危険物規則の抜粋・解説、Course Guide Edition 2020				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	IATAディプロマ危険物コースの概要説明とシラバスの案内			配布資料の整理と必要備品(マーカー、付箋、インデックス等)の準備(0.5時間)
	2	認証問題の出題形式の説明、申告書の様式と危険物ラベルの説明			配布資料の整理、出題問題の確認(0.3時間)
	3	危険物規則書の見方と目次の説明(図、表の一覧)			目次から各章の図、表のページがすぐ探せるかの練習の実施(0.5時間)
	4	危険物規則書の各章(1章~3章)と付録A,Bの内容説明			各章に何が規定されているかの内容確認と付録の内容確認を行わせる(0.5時間)
	5	危険物規則書の各章(4章~6章)の内容説明			各章に何が規定されているかの内容確認を行わせる(0.5時間)
	6	危険物規則書の各章(7章~10章)と付録C,D,E,F,G,Hの内容説明			各章に何が規定されているかの内容確認と付録の内容確認を行わせる(0.5時間)
	7	第1章 危険物の定義の説明と同章のYes or Noの問題で演習			演習問題での間違い箇所の復習を行わせる(0.5時間)
	8	第2章 危険物の制限の説明と同章のYes or Noの問題で演習			演習問題での間違い箇所の復習を行わせる(0.5時間)
	9	第3章 危険物の分類の説明と同章のYes or Noの問題で演習			演習問題での間違い箇所の復習を行わせる(0.5時間)
	10	第1章、2章、3章の復習と各章の理解度テストの実施			理解度テストでの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)
	11	第4章 危険物の識別の説明と同章のYes of Noの問題で演習			演習問題での間違い箇所の復習を行わせる(0.5時間)
	12	第4章 危険物の識別の復習と理解度テストの実施			理解度テストでの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)
	13	第5章 危険物の包装の説明			オーバーバックと同梱の違いを覚えさせる(0.5時間)
	14	第5章 危険物の包装のYes or Noの問題(PI)で演習と理解度テスト			理解度テストでの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)
	15	第6章 容器の規格の説明と Yes or No の問題で演習			演習問題での間違い箇所の復習を行わせる(0.5時間)
	16	第6章 容器の規格及び性能試験の説明とYes or Noの問題で理解度テストの実施			自己採点と間違い箇所の訂正、復習を実施させ、次回の授業で提出させる。(0.5時間)
	17	第7章 マーキングとラベリングの説明とYes or Noの問題で演習			同章のYes or Noの演習問題の復習を行わせる(0.5時間)
	18	第7章 マーキングとラベリングの復習とYes or Noの問題で理解度テストの実施			理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)
	19	第6章(容器の規格)、第7章(マーキング、ラベリング)の総復習			再度、第6章、第7章の演習問題が危険物規則書のどこに記載されているかの復習をさせる(0.5時間)
	20	第8章 書類の作成(危険物申告書と航空運送状への記載)の説明と演習			次回の理解度テストのための演習問題の復習を行わせる(0.5時間)
	21	第9章 取扱いの説明と演習の実施			次回の理解度テストのための演習問題の復習を行わせる(0.5時間)
	22	第8章(書類の作成)、第9章(取扱い)の復習と理解度テストの実施			次回の理解度テストのための演習問題の復習を行わせる(0.5時間)
	23	第10章 放射性物質の説明と演習(放射性物質とは、単位、輸送指数、種類、正式輸送品目名)			危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)
	24	第10章 放射性物質の説明と演習(輸送物のタイプ、許容値-A型輸送物、適用、除外輸送物)			危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)
	25	第10章 放射性物質の説明と演習(輸送指数、マーキング、およびラベリング)			危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)
	26	第10章 放射性物質の説明と演習(申告書類の作成、航空運送状への記載)の説明と演習			危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)
27	第10章 放射性物質の復習と練習問題による演習			練習問題の復習と危険物規則書のどこに記載されているかの内容確認をさせる(0.5時間)	

28	第10章 放射性物質のYes or Noの問題での演習と理解度テストの実施	理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)					
29	付録A(用語の解説),B(略語),C(自己反応性物質),D(国際自動車コード)の説明	危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)					
30	付録A, B, C, Dの復習と理解度テストの実施	理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)					
31	認証問題対策 Question 1 Part A 一般危険物の航空運送状の間違い、洩れの指摘	理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)					
32	認証問題対策 Question 1 Part B 一般危険物の申告書上の間違い、洩れの指摘	理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)					
33	認証問題対策 Question 1 Part C 一般危険物の包装容器上の間違い、洩れの指摘	理解度テストの間違い箇所の復習を行わせる。(0.5時間)					
34	認証問題対策 Questionn 1 全体の復習	各パートの解答を危険物規則書のどこを参照すれば解答できるかの復習をさせる(1時間)					
35	認証問題対策 Questionn 1 理解度テストの実施	各自で間違い箇所のチェックと復習(0.5時間)					
36	認証問題対策 Question 2 Part A 一般危険物(同梱又はオーバーバック)の航空運送状上の間違い、洩れの指摘	危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)					
37	認証問題対策 Question 2 Part B 一般危険物の申告書上の間違い、洩れの指摘	危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)					
38	認証問題対策 Question 2 Part C 一般危険物の包装容器上の間違い、洩れの指摘	危険物規則書のどこに記載されているかの復習を行わせる(0.5時間)					
39	認証問題対策 Question 2 全体の復習	各パートの解答を危険物規則書のどこを参照すれば解答できるかの復習をさせる(1時間)					
40	認証問題対策 Question 2 理解度テストの実施	各自で間違い箇所のチェックと復習(0.5時間)					
41	認証問題対策 Question 2 理解度テストの復習	同梱とオーバーバックの復習と違いを覚えさせる(0.5時間)					
42	認証問題対策 Question 3 Part A, Part Bの間違い、洩れの指摘	危険物規則書のどこを見れば解答できるかの復習をさせる(0.5時間)					
43	認証問題対策 Question 3 Part Cの間違い、洩れの指摘	危険物規則書のどこを見れば解答できるかの復習をさせる(0.5時間)					
44	認証試験対策 Question 3 (放射性物質)全体の復習	各パートの解答を危険物規則書のどこを参照すれば解答できるかの復習をさせる(1時間)					
45	認証問題対策 Question 3(放射性物質)の演習	認証問題に必ず出題されるポイントのマーキングと再復習を実施させる(0.5時間)					
評価方法	理解度テストを各章の説明,演習後に行い、その平均点(50%)と定期試験の点数(50%)を加味して評価をする。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		○				50%
	理解度テスト(筆記/12回)		○				50%
履修上の注意	出席率が規定に満たない場合(18コマ欠席)は定期試験の受験資格を与えない						

科目名	IATAディプロマ危険物(試験対策)								
科目名(英)	IATA DIPUROMA Dangerous Goods Regulations-Initial /Category 3)								
単位数	1	時間数	15時間	担当者	井関 雅視				
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	国際航空貨物業務を37年経験				
対象学科・学年	エアポート科2年								
授業概要	まずは国際貨物の危険物輸送を安全・確実・迅速に行うために必要な危険物規則書の正確な適用と適正な取り扱いを学習する。更に具体的に航空運送状および危険物申告書の正しい作成、的確な梱包、マーキング、ラベリングを机上での練習問題を通して習得し、実践に役立つ授業を進める。最終的により多くのディプロマ危険物ホルダーを輩出する。								
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標			
	○					危険物規則書に基づく正確な適用と適正な取り扱いができる			
	○					航空運送状、危険物申告書への正確な記載ができる			
	○					的確な梱包かなされているかの判断ができる			
	○					外装容器へのマーキングが正しく間違い、漏れがないかどうかのチェック			
○					外装容器へのラベリングが正しく、ラベル貼り洩れがないかどうかのチェック				
テキスト・教材 参考図書	Dangerous Goods Regulations Edition 61, ICAO-IATA 危険物規則の抜粋・解説、Course Guide Edition 2020								
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示			
	1	試験対策 Question 3 放射性物質 Part A, B, Cの模擬テスト				解答できなかった個所の復習を行わせる(1時間)			
	2	試験対策 Question 3 放射性物質 Part A, B, Cの模擬テストの復習				各自の間違い箇所を復習させる(0.5時間)			
	3	試験対策 Question 1~2 一般危険物 Part A, B, Cの模擬テスト				解答できなかった個所の復習を行わせる(1時間)			
	4	試験対策 Question 1~2一般危険物 の上記3. 模擬テストの復習				各自の間違い箇所を復習させる(0.5時間)			
	5	試験対策 Question 4~15 一般危険物 Yes or No 問題の模擬テスト				解答できなかった個所の復習を行わせる(1時間)			
	6	試験対策 Question 4~15 一般危険物の上記5. 模擬テストの復習				各自の間違い箇所を復習させる(0.5時間)			
	7	試験対策 Question 16~20放射性物質 Yes or No 問題の模擬テスト				解答できなかった個所の復習を行わせる(1時間)			
	8	試験対策 Question 16~20放射性物質 上記7. 模擬テストの復習				各自の間違い箇所を復習させる(0.5時間)			
評価方法	模擬テスト(4回)を各章の説明、演習後に行い、その平均点(50%)と定期試験の点数(50%)を加味して評価をする。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○				50%		
	模擬テスト(筆記/4回)		○				50%		
履修上の注意	出席率が規定に満たない場合(6回)は定期試験の受験資格を与えない								

科目名	空港実務ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野 浩一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	エアラインのグループ企業にて、グランドハンドリング業務に従事		
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	空港地上支援業務従事者として、実際の業務に於いて必要な知識の定着を図る。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	目標		
	○				航空用語を理解し、業界人としての会話ができるようになる		
	○				ULD・BULK機材の搭降載・特殊貨物の作業要領を理解し、説明することができる。		
	○				GSE操作要領を理解し、説明することができる		
	○	○			各業務の作業手順を理解し、説明することができる		
○	○	○			到着・出発での整備業務を理解し、説明することができる		
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グランドハンドリングの概要 空港実務Ⅰの振り返り					
	2	グランドハンドリングの基礎学 到着業務・情報把握・準備					
	3	ULD・BULK機材の搭降載・搬送作業要領					
	4	ULD・BULK機材の搭降載・搬送作業要領					
	5	ULD・BULK機材の特殊貨物の作業要領					
	6	GSE操作要領(コンテナ・ドローリー・車両)					
	7	手荷物取扱いについて TAGの種類とBHS					
	8	理解度テストとフォローアップ					
	9	旅客ハンドリング 車いすケア/ストレッチャー					
	10	客室サービス業務(Lavatory Service / Water Service)					
	11	ランプ IN/OUT(誘導作業) マーシャリングの実技				教科書の該当範囲を事前に読んでおく(0.5時間)	
	12	ランプ IN/OUT(誘導作業)				教科書の該当範囲を事前に読んでおく(0.5時間)	
	13	整備補助業務 GPU作業/インターホン作業				インターホンの手順を覚える(0.5時間)	
	14	整備補助業務 GPU作業/インターホン作業 実技口頭質問				インターホンの手順を覚える(0.5時間)	
15	理解度テストとフォローアップ						
評価方法	(1)定期試験の実施 (2)授業の中で理解度テストを実施 (3)授業中での実技および口頭質問以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	理解度テスト(筆記/2回)	○	◎				20%
	実技及び口頭質問	○	○	◎			10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	航空品質管理Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	河野 浩一		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	エアラインのグループ企業にて、グランドハンドリング業務に従事		
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	空港地上支援業務従事者として、安全品質に関する意識を高めヒューマンエラー防止に向け危険予知能力の向上を図る。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				安全管理・品質管理を理解し、安全に関する重要性を説明することができる		
	○				ヒューマンファクターの考え方を理解し、ヒューマンエラーの要因を説明できる		
		○			作業での危険箇所(ハザードエリア)を予測することができる		
			○	○	指差呼称を使った確認ができる		
テキスト・教材 参考図書	「航空機のグランドハンドリング」日本航空技術協会出版 パワーポイントなど各プリント資料						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	安全管理・品質管理とは				授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)	
	2	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)				授業該当箇所の復習を行う(0.6時間)	
	3	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)				授業該当箇所の復習を行う(0.7時間)	
	4	ヒューマンファクターへの取り組み(Dirty Dozen)				授業該当箇所の復習を行う(0.8時間)	
	5	ヒューマンファクターとリソースマネージメント				授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)	
	6	コミュニケーションスキルの活用について(確認会話)				授業該当箇所の復習を行う(0.6時間)	
	7	指差呼称の目指すもの 手法と実践					
	8	空港内の安全管理規定				授業該当箇所の復習を行う(0.5時間)	
	9	空港業務におけるケーススタディ					
	10	空港業務におけるケーススタディ・理解度テスト					
	11	尊い命をお預かりする仕事 ~航空機事故事例~					
	12	エアポートリソース マネージメント(チームビルディング)					
	13	エアポートリソース マネージメント(スレット&エラーマネージメント)					
	14	職場の安全活動 ヒヤリハットメモ/安全品質情報の作成					
15	授業全体の振り返り 実技 指差呼称						
評価方法	(1)定期試験の実施(2)授業の中で理解度テストを実施(3)授業中での実技および口頭質問(4)宿題・レポートの提出 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎					60%
	理解度テスト(筆記/1回)	◎					20%
	実技及び口頭質問		○	◎	○		10%
	宿題・レポート(1枚/1回)	○					10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	フィジカルトレーニングA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口 恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	就業現場での業務上の基盤となる基礎体力の向上と維持及び社会におけるコミュニケーションツールとしてのスポーツを学び、行動力と協調性も合わせて養う。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
			○			効果的な身体トレーニング方法ができる	
			○			基本的な運動を行うことができる	
			○			運動を通してコミュニケーションやチームワークを学ぶ	
テキスト・教材 参考図書	関連資料プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動習慣の効果の学習と理解					
	2	体力の向上と維持 ～ジョギングとそれによる運動効果～					
	3	体力の向上と維持 ～ウォーキングとそれによる運動効果～					
	4	体力の向上と維持 ～バレーボールとそれによる運動効果～					
	5	体力の向上と維持 ～筋力トレーニングとそれによる運動効果～					
	6	体力の向上と維持 ～バレーボールとそれによる運動効果～					
	7	体力の向上と維持 ～ストレッチ運動とそれによる運動効果～					
	8	体力の向上と維持 ～バスケットボールとそれによる運動効果～					
	9	体力の向上と維持 ～筋力トレーニングとそれによる運動効果～					
	10	体力の向上と維持 ～バスケットボールとそれによる運動効果～					
	11	体力の向上と維持 ～フットサルとそれによる運動効果～					
	12	体力の向上と維持 ～ランニングとそれによる運動効果～					
	13	体力の向上と維持 ～フットサルとそれによる運動効果～					
	14	体力の向上と維持 ～バドミントンとそれによる運動効果～					
15	体力の向上と維持 ～筋力トレーニングとそれによる運動効果～						
評価方法	(1)出席状況を意欲点として評価 (2)実技テスト 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		50%
	実技テスト				○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を与えない。						

科目名	GCB II						
科目名(英)	Global Citizen Basic II						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	瀧口 恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	GCB I を踏まえ、更に「社会との繋がりの中で自分自身の生きる姿勢」、すなわち「志」について考える。夢を実現するためには「行動する力」が必要となるが、そのためには具体的に言語化してビジョン化し、そのビジョンに強い信念が伴い、自分以外の人や社会・公のことが視野に入ると「志」に近づくということを学ぶ。						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		自ら考え、気づくことができる	
				○		積極的に話し合いに参加し、発表することができる	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックII 志の教育(学生用テキスト)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	2	自分を取り巻く環境を知る ～世界の中の日本・日本の中の私～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	3	自己を知る				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	4	伝える力を学ぶⅠ ～プレゼンテーション～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	5	伝える力を学ぶⅡ ～グループコミュニケーション～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	6	先人の志に学ぶ ～プロフェッショナルとは～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	7	成功者の考え方に学ぶ ～まとめに向けて～				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	8	自らの志を言語化する(知行合一の考えに基づく)				振り返りレポートの作成(0.5時間)	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)レポート(8回分) (2)発表(最終回) 以上を、以下の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート	○					50%
	発表	◎			○		50%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、不合格となる。						

科目名	一般教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口、市原、合力		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年、トラベル科2年、ホテル科2年、プライダル科2年、英語コミュニケーション科2年、海外ビジネス科2年						
授業概要	企業の就職試験問題に対応できる実力を養成する。国語・数学・英語・社会における一般常識力とSPI問題の解法を理解し、実際の採用試験に解答できる能力の養成を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					漢字検定2級程度の漢字の読書ができる	
	○					計算問題を中心に正確に解答することができる	
	○					英検準2級程度の問題に解答することができる	
	○					歴史に沿って時代の流れを理解し、歴史上の出来事について概要を説明することができる	
	○					数学の文章問題・四則演算を限られた時間の中で解答することができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	科目概要・シラバス説明、第5回実力テスト					
	2	第1回:世界史、英語、SPI(玉手箱、分割払い)			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	3	第1回:数学、第2回:社会、SPI(玉手箱、分割払い)			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	4	第2回:英語、数学、SPI:割引料金と精算、仕事算			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	5	第3回:社会、SPI:割合、損益算			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	6	第3回:数学、英語、SPI:損益算、速度算			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	7	第4回:数学、社会、英語、SPI:速度算、集合			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	8	第5回:数学、英語、社会			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	9	第6回:社会、英語、SPI:集合、推論			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	10	第7回:社会、英語、数学、SPI:推論			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	11	第8回:社会、英語、数学、SPI:推論、四則演算			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	12	第9回:英語、数学、社会、SPI:四則演算、割合			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	13	第10回:数学、社会、英語			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
	14	第10回:英語、SPI:売買分割、推理、順列・組み合わせ			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)		
15	まとめ:前期試験範囲振り返りと対策			テキストの該当部分の復習を行う(0.5時間)			
評価方法	(1)定期試験 (2)小テスト (3)出席状況を意欲点として評価 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎			○		80%
	小テスト(筆記/2回)	◎			○		10%
	出席状況	◎			○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	SPI II						
科目名(英)	Synthetic Personality Inventory II						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口 恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	航空業界の採用試験で多くの航空会社が導入しているSPI試験の対策授業。非言語分野問題(数学)をメインに、SPI I で学習したことを基礎として、SPI II では更に応用力を身に付け確実に問題に解答できる力を養う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				各項目の解法を理解し、式をたてることができる		
	○				制限時間内に解答することができる		
	○				模擬試験問題を7割以上の正答率で解答することができる		
テキスト・教材 参考図書	オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要・シラバス説明、SPI I 復習					
	2	模擬試験問題: 仕事算、速度算、確率、N進法、推論				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	3	模擬試験問題: N進法、集合、確率				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	4	模擬試験問題: 確率、推論、集合				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	5	模擬試験問題: 速度算、順列、組み合わせ				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	6	模擬試験問題: 推論、順列、組み合わせ、集合				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	7	模擬試験問題: 推論、仕事算、割合、N進法				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	8	模擬試験問題: 損益算、割合、集合				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	9	模擬試験問題: 速度算、損益算、確率				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	10	模擬試験問題: 2~9のまとめ・確認テスト				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	11	模擬試験問題: 分割払い、料金割引、料金精算				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	12	模擬試験問題: 速度算、資料解釈				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	13	模擬試験問題: 集合、推論				テキストの該当部分の復習(1時間)	
	14	模擬試験問題: 推論				テキストの該当部分の復習(1時間)	
15	模擬試験問題: 2~9、11~14のまとめ				テキストの該当部分の復習(1時間)		
評価方法	(1) 定期試験 (2) 確認テスト (3) 出席状況を意欲点として評価 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○		○		80%
	確認テスト(筆記/2回)	◎	○		○		10%
	出席状況				○		10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

	28	TOEIC模試③ リーディング100問	間違った問題をやり直す(0.5時間)				
	29	TOEIC模試③ リスニング100問	正試験に向け復習を行う(1時間)				
	30	前期まとめ	正試験に向け復習を行う(1時間)				
評価方法	(1)定期試験 (2)単語テスト(9回) (3)復習テスト(2回) 以上を、以下の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S (90点以上)、A (80点以上)、B (70点以上)、C (60点以上)、D (59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	単語テスト(筆記・9回)	○					10%
	復習テスト(筆記・2回)	◎	○				40%
履修上の注意	出席が20回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	実用英語ⅡA				
科目名(英)					
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	中山久豪
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	
対象学科・学年	エアポート科2年				
授業概要	TOEIC400～500に必要な英語の基礎、応用を学ぶ。基本的な文法の確認を行うと共に、簡単な長文の読解を目指す。音読練習も加えたリスニング練習を反復的に行うことで、資格試験のみならず、日常会話に必要な力も伸ばしていく。				
授業形式	講義:	○	演習:		※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	目標				
	○				
	○				
	○				
○					
テキスト・教材 参考図書	TOEIC過去問、TOEIC L&Rテスト完全模試、TOEICL&Rテスト総合模試				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	確認テスト			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	2	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	3	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	4	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	5	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	6	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	7	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	8	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	9	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	10	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	11	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	12	復習テスト			復習テスト振り返り
	13	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	14	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	15	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	16	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	17	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	18	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	19	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	20	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	21	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	22	復習テスト			復習テスト振り返り
	23	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	24	リスニング、リーディング(Part1、5)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	25	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
	26	リスニング、リーディング(Part2、6)			単語テストに向け該当箇所を覚える。
27	リスニング、リーディング(Part3、4、7)			単語テストに向け該当箇所を覚える。	

	28	リスニング、リーディング(Part3, 4, 7)	単語テストに向け該当箇所を覚える。				
	29	リスニング、リーディング(Part3, 4, 7)	単語テストに向け該当箇所を覚える。				
	30	前期のまとめ	単語テストに向け該当箇所を覚える。				
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 (2) 検定を受験する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				60%
	検定取得状況	◎	○				40%
履修上の注意	電子辞書の持参。						

科目名	社会教養ⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	瀧口 恵子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	就職に向けての意識を高め、就職活動準備や就職試験対策(履歴書作成・エントリーシート作成・面接対策等)を行い、希望する業界・企業・職種への内定を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○				履歴書・エントリーシートを作成し、企業情報等をノートにまとめ活用することができる		
	○				面接で自分の考えをまとめ伝えることができる		
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業概要・シラバス説明、スケジュール確認					
	2	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)①					
	3	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)②					
	4	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)③					
	5	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)④					
	6	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)⑤					
	7	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)⑥					
	8	就職活動指導(面接練習)、事前学習(専門用語/2・3レター確認)⑦					
	9	事前課題①					
	10	事前課題②					
	11	事前課題③					
	12	事前課題④					
	13	事前課題⑤					
	14	事前課題⑥					
15	事前課題⑦						
評価方法	(1)出席状況を意欲点として評価 (2)小テスト 以上を、下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	出席状況				○		80%
	小テスト	○	○		◎		20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、不合格とする(D評価)。						

科目名	ビジネスマナー演習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	榎本 美和子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	7月に実施されるビジネス能力検定3級(ジョブパス3級)の取得を目標に、テキストを基本に講義と過去問題演習を通じ、社会人としてのスキルを身に付ける。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○					ビジネス用語の意味を理解し説明することができる	
				○		ビジネスマナーを身に付け、実践することができる	
	○					過去問題演習を通じ、解き方のコツを理解し正しく解答することができる	
				○		社会人として積極的に人間関係を構築し、円滑なコミュニケーションを行うことができる	
テキスト・教材 参考図書	「ビジネス能力検定 ジョブパス3級 公式テキスト」日本能率協会マネージメント						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	授業ガイダンス・ビジネス能力検定概要・ビジネス用語・ケース問題			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	2	ビジネス用語・新聞の読み方・情報収集			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	3	ビジネス用語・統計データの読み方			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	4	ビジネス用語・ビジネス文書・8つの意味			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	5	ビジネス用語・コミュニケーションとビジネスマナーの基本			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	6	ビジネス用語・コミュニケーションとビジネスマナーの基本			ビジネス用語を覚える(0.5時間)		
	7	過去問題 解答 ① ビジネス用語			ビジネス用語を覚える・誤答の訂正(0.5時間)		
	8	過去問題 解答 ② ビジネス用語			ビジネス用語を覚える・誤答の訂正(0.5時間)		
	9	過去問題 解答 ③ ビジネス用語			ビジネス用語を覚える・誤答の訂正(0.5時間)		
	10	過去問題 解答 ④ ビジネス用語			ビジネス用語を覚える・誤答の訂正(0.5時間)		
	11	過去問題 解答 ⑤ ビジネス用語			ビジネス用語を覚える・誤答の訂正(0.5時間)		
	12	本試験 答え合わせ					
	13	冠婚葬祭(ロールプレイング)					
	14	社会人として大切な事					
15	講義の総まとめ						
評価方法	(1)ビジネス用語小テスト (2)定期試験 以上を、以下の観点・割合から評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				70%
	ビジネス用語小テスト(筆記/5回)	◎	○				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	サービス介助						
科目名(英)	Service assistance						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	玉置 万理子		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	航空会社客室乗務員と して勤務		
対象学科・学年	エアポート科2年						
授業概要	超高齢社会にある日本において公共機関、交通機関、商業施設、レジャー施設、観光施設などあらゆる接客・接遇の場面で全ての人が安心して暮らしていけるサービスが必要である。この授業では、自分のできることや自分の役割を常に意識し、自発的に様々な人に関わり、円滑なコミュニケーションと快いサポートが提供できるようになるスキルの習得を目指す。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					超高齢社会の日本の現状を字ひ、高齢者体験を通して高齢者の心身の状況を説明できる。	
			○			肢体不自由者の状態を学び、サポートできるようになる。	
			○			肢体不自由者の状態に応じた車椅子介助ができるようになる。	
			○			視覚障がい者の状態と環境を字ひ、体験を通して介助のしかたを工夫して提供できるようになる。	
	○					聴覚障がい者の状態と環境を学び、相手に合った介助のしかたを工夫できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	超高齢社会の日本の現状				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	2	肢体不自由者 - 肢体不自由者とは				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	3	肢体不自由者 - 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	4	肢体不自由者 - 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	5	肢体不自由者 - 車椅子介助の操作演習				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	6	肢体不自由者 - 車椅子介助の実技試験				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	7	高齢者介助 - 高齢者体験				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	8	高齢者介助 - 高齢者の現状				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	9	高齢者介助 - 高齢者の心身の変化				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	10	視覚障がい者 - 視覚障がい者体験(目隠し歩行)				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	11	視覚障がい者 - 視覚障がい者介助演習				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	12	視覚障がい者 - 視覚障がい者の現状				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	13	聴覚障がい者 - 聴覚障がい者とは				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	14	聴覚障がい者 - 聴覚障がい者介助演習				本日の授業内容を復習しておくこと(0.5時間)	
	15	総まとめ・レポート課題					
評価方法	(1)授業の中で実技試験を実施する。(2)レポート、課題プリントの提出 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業中の実技試験			◎	○		50%
	レポート提出	○	◎		○		50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位認定なし。						